

2020年 東北大学前期日程試験【英語】問題分析

1 今年（2020）の傾向

総評・講評（大問毎に）

【総評】

大問は4問構成で、長文読解が2問、会話文に基づく英問英答が1問、和文英訳が1問である。大問の構成と長文読解の本文の分量は例年と大きく変わらない。他方で、小問の構成に変化があった。一つは、記号選択式の小問が増えて、その分選択肢の英文量が増えた。さらに、Ⅲの英語で記述する解答の分量が増えたことで、昨年度よりも時間制限内に解答するのが難しくなった。

【個別分析設問Ⅰ】 長文読解

経験的探究は一定の不確実性を残すものであるが、このことは真理だと思われるものが検証される余地を残し、検証を通して真理の確実性を高めていくことができるという点でむしろ有益である、という趣旨の下、経験に基づく科学的探究の意義を論じた文章。小問の構成は記述説明が3問、英文和訳が1問、同義語選択が1問（4語句）。

問1 下線部説明（日本語） 解答欄は2行

下線部 the theory が指す内容は直前の文で Bacon が思い浮かべた内容 (the snow lying all around him might be as effective as salt at preserving flesh)。解答はこの部分を訳出する。なお、下線部の後で the theory を検証するために雌鶏を貧しい女性から買い、その内臓を取り出して（塩の代わりに）雪を詰める、ということをしていることから該当箇所を絞り込むことができる。

問2 下線部説明（日本語） 解答欄は6行

下線部は these examples と複数形で「例」を指している。下線部に続く箇所が「証拠に基づいた真理の信頼性に対する十分な証拠にはみえない」とあることから、下線部が指す具体例はどちらも証拠に基づくものの相互に矛盾し、確証が得られないものだと考えられる。これは、下線部の前2段落で挙げられている風邪をひく原因に関する2種類の見解を指す。一方で数多くの研究が風邪をひくことと体温の低下は関係がないことを示し、他方で2015年の研究が体温の低下が免疫力の低下を招き、風邪をひきやすくさせることを示している。この2種類の研究例を要約する。

問3 下線部説明（日本語） 解答欄は2行

open-ended は「無制限の」「変更可能な」。下線部の open-endedness はこれを名詞化したもの。前段落に対して「経験に基づく探求の可変性は弱点ではなく、むしろ実際には強みである」と述べられていることから、前段落には一

見ると弱点に見えてしまう「可変性」の特徴が述べられていると考えられる。empirical inquiry が empirical approach とほぼ同じ意味であることから、an empirical approach leaves us with uncertainty, rather than knowledge が下線部の表現に言い換えられていると考えられる。そして、この事柄とほぼ同内容の言及が下線部と同じ段落の第 6 文にある。ここで設問の「具体的に」という条件に注意したい。解答欄が 2 行しかないことを考えると、具体的な事例の説明を含めてまとめるとは考えにくい。したがって、これは単に下線部を直訳するのではなく本文の他の箇所の情報に基づいて「詳しく説明」せよ、という指示であると捉える。そうすると、下線部の前段落 leaves us with uncertainty が下線部と同段落の第 6 文で they(=Matters of fact) cannot be established with 100 percent certainty と「具体的に」言い換えられている点、さらにこのことが、定義によって真理の正しさを 100% 確定できる pure logic と対比されている点を踏まえて下線部の内容を具体的に説明しよう。

問 4 英文和訳

主節はカンマまで。主語は what we hold to be true の名詞節、動詞は is、補語は形容詞の open。hold [O] to be [C] は「[O]を[C]だと思ふ」。また、open to [名詞/動名詞] は「[名詞/動名詞]の余地が残されている」の意味。カンマの後の which の先行詞は主節全体。which から始まる関係節内の構文は make [O] [C] で、[O]が the truths that pass the test、[C]が more reliable。下線部(D)の直後の文が意味内容のヒントになっている。

問 5 同語義選択

(1) 下線部の語 damp は形容詞で「湿っぽい」の意味。これに最も近いのは(ウ)moist。なお、dump (動詞「捨てる」、名詞「ゴミの山、汚い場所」と勘違いすると(イ)dusty を選んでしまうので注意する。

(2) 下線部の語 impaired は動詞 impair 「損なう、害する」の過去分詞。これに最も近いのは(イ)weakened。なお、(ウ)lacking は「～が欠けている」、(エ)bruised は「(外傷・打撲などの) 傷を負う、感情が傷つけられる」の意味なので本文の文脈に合わない。

(3) 下線部の語 intelligible は形容詞で「理解できる」の意味。これに最も近いのは(ア)comprehensible。なお、(イ)evident は「(証拠があつて) 明白な」の意味なので異なる。次文の accept+[that 節]が[that 節] is no less intelligible a proposition の言い換えである。

(4) 下線部の語 scrutiny は名詞で「吟味、調査」の意味。これに最も近いのは(エ)inspection。下線部を含む文 it(=the truth) is always open to scrutiny...は直前の下線部(D)What... is constantly open to being tested の言い換えである。

【個別分析設問Ⅱ】 長文読解

人間の操作を介さない、デバイスどうしがインターネットによって結びつくIoT(Internet of things)を紹介した文章。最先端の情報技術を具体的に取り上げている点で、古典的な科学思想を主題としたIとは好対照である。小問の構成は説明記述が1問、英文和訳が1問、文整序が1問、文の空所補充が1問、内容合致が1問(選択肢7つの中から3つを選ぶ)。

問1 下線部説明(日本語) 解答欄は3行

下線部に this があることから直前の内容を指示する可能性が高い(ない場合には直後の可能性を考える)。本文では下線部の notion とほぼ同じ意味の idea が同段落第1文にあるので、idea の内容を示す同格の接続詞 that 以降が this notion の内容だと考えられる。

問2 文整序

まず、接続詞や接続副詞に注目すると(ア)の however が、(イ)の about seven connected devices と(ア)の the figure will reach twenty を対照させていると推測できる。それゆえ、(イ)→(ア)。そして、下線部(B)の直後にある文の a growing percentage of individuals とのつながりから、88 percent of mobile device owners を含む(ウ)が最後であると考えられる。問題は(エ)の位置だ。指示語に注目して these devices が指すものを探すと、下線部(B)の直前には見当たらず、(イ)の devices、(ア)の twenty の後に省略されている devices が候補として挙がる。(エ)の文意は「これらのデバイスを取り囲む技術はますます重要になる」なので、(イ)→(ア)→(エ)とすると、「これらのデバイスを取り囲む技術」が(ウ)の home automation systems へと具体化されていると読めるので、正解は(イ)→(ア)→(エ)→(ウ)。

問3 文補充

下線部(C)の直前の段落では、商品の消費・使用よりも情報やサービスが重視され、インターネットに接続できることや様々なデバイスを通じてコンテンツを見られることが消費者にとっての第一の魅力であることが述べられている。これは「製品」についての消費者の考え方が変化したことを表している。そして、下線部(C)の直後では、四半世紀前は映画を見るために映画館に行き、チケットを買うのに現金を払うことをしていたが、今ではストリーミングで映画を購入したり、タブレット等でそれを見たりできる、ということが述べられている。これは消費者の「行動」が変化したことを表している。この二つの変化を述べており、両者のつなぎの役割を果たす文は(ウ)。

問4 英文和訳

文の主な構造は [S①] a light switch...not only [V①] allows a homeowner [不定詞(1)] to program... and manually [不定詞(2)] control..., but [S②] it also [V②] can [②-動詞(1)] be

connected...and...[②-動詞(2)]save money. 文の前半 (not only...) と後半 (but also...) を区切って読めるかどうか重要なポイント。その上で、前半は[無生物主語] allow [O] to do の構文で、to 不定詞が2つ並んでいることを見抜く。主語①と主語②は同じもの (a light switch)。構文ミスを誘発すると思われるのは主語の直後にある that is Internet enabled の部分。that が関係代名詞であると推測するところまではよいとしても、この enabled を動詞の過去形だと捉えてしまうと、Internet の前の is が何の役割を果たしているのかわからなくなる ([S] enable [O] to do というよく見られる語法にも当てはまらない)。実際には、この enabled は過去分詞で、Internet-enabled のように何らかの名詞を伴って形容詞として用いられる。意味は「インターネットに接続可能な」「インターネットに対応した」など。コンピュータ分野で使用される比較的新しい表現。ただ、この語法を知らなくとも、a light switch が「インターネットによって可能になる」新しいタイプのスイッチだということが文脈から推測できれば訳せる。直前の connect devices into a vast network の具体例が下線部(D)であることから推測しよう。

問5 内容合致

(ア)第1段落第3文、および第4文、第5文に不一致。選択肢では innovative consumer telemarketing technologies とあるが、本文では第3文で as a result of technology innovation としか述べられていない。また、created comforts that have helped drive societal gains と繋げて表現されているが、本文では第4文と第5文で comforts とそれを修飾する関係詞節の内容は別のものとして述べられている。

(イ)第3段落第5文に合致。

(ウ)第4段落第3文に不一致。本文は adds substantial value for the person using it 「(インターネットにつながられた個々のデバイスは) それを使用する人にとって重要な価値を付け加える」。選択肢のように「個々の使用者をより価値ある者にする」のではない。

(エ)第5段落第2文に一致。

(オ)第6段落に不一致。選択肢では台所やふる場の RFID タグが a smartphone message from a store で買い物に行く頃合いを知らせてくれるとなっているが、本文では消費者が店舗に入ったり売り場に近づいたときに店からのメッセージがスマートフォンで受け取れるとある。

(カ)第7段落第3文および第8段落第1文に不一致。選択肢では「デバイスがお互いをつなぐ方法のほとんどを出し尽くしてしまった」とあるが、本文では「これらのデバイス全てを支えるための基盤や社会基盤はようやくいま成熟し始めている」「今日技術革新の速度は急激に加速し、デジタルテクノロジー

ーは成熟しつつある」とある。

(キ)第 8 段落第 2 文に合致。

【個別分析設問Ⅲ】 英問英答

日本の大学生生活にうまく適応できず交友関係を広げることができない Bradley に対して、その友人 Kaede が自身の所属する乗馬部への加入を勧めている会話文。小問の構成は、同義語選択が 1 問（4 語句）、会話内容を英語で説明する問題が 1 問（2 種類の相反する理由を説明する）。

(1) 同義語選択

①下線部の語句 cater to は「～の要求に応ずる」「～に（娯楽・食事を）提供する」の意味。但し、ここでは本文の文脈に選択肢の語句を当てはめて考えればよい。主語 they は some “Greek organizations”を指すので、こうした組織が排他的になる理由としては「特定の経歴や専門、宗教、人種の学生のことだけを考慮する」からだと考えられるので、a.の consider が当てはまる。

②下線部の語句 affiliated with は「～と提携する」「～の系列下に加盟する」の意味だが、これも本文の文脈から類推する方がよい。本文では個々の fraternity や sorority が全国的な管理組織に「属している」が、ふつうは自己統制的で地域ごとの学生によって運営されている、と述べられている。したがって、c. attached to が最も近い。

③下線部の語句 over-the-top は「度が過ぎた」の意味。直前の形容詞 foolish と並んで名詞句 initiation tests on juniors を修飾していることから否定的な含意の語句であることがわかればよい。選択肢の中で否定的な含意を持つのは b.の excessive のみ。

④下線部の語 intriguing は動詞 intrigue 「興味をそそる」の現在分詞。これも下線部の語を知らなくとも、下線部の直後にある理由の内容から推測できる。Bradley は馬が怖いだけでなく、Kaede が話してくれた乗馬部の社会的交流については気に入っている。したがって、乗馬部に誘ってくれた Kaede の提案は「魅力的な」考えだと言えるので d. fascinating が正解。

(2) 説明要約（英語）

Bradley が Kaede が勧誘するクラブに参加したい理由と参加したくない理由をそれぞれ 3 点ずつ本文に即して英語で説明する。

(a) Bradley がクラブに参加したい理由

①Bradley の 1 つ目の発言 I've had trouble meeting new people, and... I have no social life whatsoever. また、Bradley の最後の発言 I really like what you said about the social aspects and the friendship...は上述の①とほぼ同内容。

②Bradley の 1 つ目の発言 I spend most of my free time just studying, so I'm

thinking of joining a club.

③Kaede の 2 つ目の発言 I've... received a lot of valuable guidance and advice from my seniors....

(b)Bradley がクラブに参加したくない理由

①Bradley の 7 番目の発言 I know what you mean about the *senpai-kohai* system and misusing authority. また、Bradley の 8 番目の発言 I do know what you mean about peer pressure.から It was very embarrassing.にかけてもほぼ同内容。

②Kaede の 1 番目の発言にある clubs tend to make demands on your free time の部分からこれまで勉強に費やしていた自由時間が奪われることに言及できる。

③最後の Bradley の発言 I'm a little scared of horses so I can't imagine riding one.

【個別分析設問Ⅳ】 和文英訳

出典は、永田和宏「〈知〉の限界を楽しむ心」『京都新聞』2017年10月15日。昨年同様、部分訳2問の形式。元になる日本語がややまとまりに欠けているので、伝えたい内容を考えて、英語に訳す必要がある。全体の分量を考えると、そこに時間をかけることができず、受験生はかなり苦労したのではないか。

- (A) 全体としては、「そんな純粋な欲求が『文化』を支えている」が軸になる。それを解答例①では強調構文を用いて表現し、解答例②では「そんな欲求」の内容を第1文で示し表現した。「純粋な」はここでは genuine がふさわしいが、pure でも大丈夫。「未知の世界を究める」は go deeply into the truth of the unknown world no one has ever reached とするか、解答例②のように「誰も成し遂げたことのない目標を達成する」などと言い換えて表現する。「美術、音楽などの芸術の世界から芸能の世界まで」は ranging from X, such as A and B, to Y とバランスをとるか、in the field of X, Y and Z とまとめてしまう。
- (B) 3つの文で構成されている。第1文は「～する人々は、...する人々である」なので、_[S]People ~ _[V]are _[C]those who ... とするか、_[S]People... _[V]...。「知の限界に挑戦する」は challenge the limit of the knowledge だが、解答例②のように push the envelope in their discipline などとしてもよい。第2文は not only X but also Y を主語にすることも可能だが、①②とも culture を主語にする構成を工夫してみた。第3文の「役に立つ、立たないの区別」は between “useful” and “useless” とすることも考えられるが、ここでは between what is useful and what is useless と文法に忠実に書いた方がよいだろう。

2 合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（％）予想

【文系】

文学部	60 %
教育学部	60 %
法学部	65 %
経済学部	60 %

【理系】

理学部	65 %	歯学部	65 %
医学部	70 %	薬学部	65 %
保健／看護	60 %	工学部	65 %
“ 放射線	60 %	農学部	65 %
“ 検査	60 %	経済学部	65 %

3 来年受験する生徒へのアドバイス

今年度の出題全体に関して留意すべき特徴は次の3点。第一に、同義語選択の問題がⅠとⅢに計8語句出題された。語彙力が試されると同時に、前後の文脈から語句の意味を類推する読み方を普段から実践しているかどうかも問われている。第二に、Ⅰの問2と問3のように、設問はいずれも下線部が「具体的にどのようなことを意味しているか」を説明するものだが解答欄の大きさが異なる出題。漫然と「それらしい」内容を機械的にまとめるのではなく、下線部の内容を言い換えている箇所を精確に特定し、個々の下線部を説明する必要十分な情報を取捨選択する能力が要求されている。こうした能力は、過去問題集の模範解答を見るだけでは身につかない。実際に、自分で本文を読み解き、解答を書く練習が欠かせない。第三に、Ⅲの(2)のように本文から複数の理由となりうる箇所を短時間で要約整理する記述力を試す出題。今回の会話文のように比較的読みやすい文章を基にして、ポイントを絞って要約を作成する練習を重ねることで速度と正確さの向上に努めるとよい。